



就農希望者のハードル

わが家は「新野支援隊」のご厚意により、昨年、横浜から新野町に引っ越してきました。主人は小松島にあるNPO法人の農業

スクールで研修を受けており、農業の基礎知識を身につけ、その奥深さや大変さ、楽しさなどを体験しています。

研修終了の日が近づき、研修生たちは一様に就農への意欲をみなぎらせています。しかし、実際に農業を行うまでにはさまざまなハードルがあります。

最初のハードルは、耕作地との出会いです。情報収集が難しく、地元の方の紹介やご



新野町 黒川喜美恵さん

好意でしか耕作地を見つけることができませぬ。地元の方との交流も、どこから始めればいいのか戸惑うことも。相談できる人さえいないこともあるのが現状です。

若者の就農離れが進むなか、私たちのように農地を持たない就農希望者が耕作地に出会えることは、第一次産業の再生や国土保全にもつながると思います。そのためには、行政などが地元と連携して、耕作放棄地のマ

ップを作り、就農希望者と結び付ける仕組みを構築するなどして、就農支援をいっそう強化してほしいと強く感じています。

研修センターで農業を学び、就農意欲を高めた若者たちが耕作地と出会うことを願いながら、今日も新野の方の協力を得て、耕作地探しに精を出しています。

次是那賀川町の杉本博さんにお願ひします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭短歌大会選

吉谷 富穂
老いてしかわからぬことの多かりき姑との来し方想い浮かべる

遠藤美千代
週に一度施設に届ける洗濯物母は自分の世界を旅する

水口 明美
しおからのガラスのような羽透かせ夏場は姑のトマト育くむ

青木 恭子
のぼり藤椎の古木にからみつき谷間はなやぎ夏の近づく

三澤 和子
逝く夏の不意に淋しく人去りて耳に沁み入るつくつく法師

佐野 幸子
フォーマルに装いたれどモップ^だ舐^だ膩いつしかパートも四歳を過ぎし

吉永賀代子
病室の扉の前で笑顔つくり癌病む母に今日も寄り添う

俳句

阿南市俳句連合会選

佐野 峯子
春の風野^{のだ}点の子らのひぎ小僧

奥田 久女
隴夜やローカル線のきしむ音

西岡 典子
ぜんまいの産毛きらりと雨上る

庄野 年美
鷗外の学びし古都の老櫻

山上 侯代
山門に入れば鶯迎えくれ

坂東美恵子
それなりに写りし写真花の下

藤崎 稔
二年樹の蜂須賀桜二つ咲く

岡本 隆子
種蒔くや風の和^やわらぐ山日和

山川 喜美
あしかびや旅立つ子等のVサイン

近藤 匡恵
宿坊の一夜の泊り雛と寝し

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

西田 修身
立てば直ぐついでに取れと妻は言う

佐藤つたえ
物価高あれもこれもと数知れず

臣守 愛香
余生など言つて居れない日々多忙

滝川 太郎
出した手を急いでそらす桁違い

湯浅 三子
過去の事言わないことにする卒寿